

視点2 **本気の学習問題を追究し、社会的事象に意味に迫る授業づくり**

手立て①体験活動を根拠とし、子どもの思考を深めるための資料提示

【本気の学習問題に教師から「そうだよね。そういえば作らせたのは誰?」と

切り替えた言葉とタイミング】

- 体験学習があったことで普段発言がない児童も盛り上がるようになった。
- 自分で体験することでイメージしやすく、別の角度から考えることができた。
- 新学習指導要領的に時宗にフォーカスしているのであれば、単元の流れを違っていた方がよい。
- このタイミングで時宗に切り替えるには何か手立てが必要。

3 指導講評 鵜飼数夫校長先生（滝頭小学校）

- ・学習問題は答えを出すものではない。
- ・立ち返りがいくつもある中で本気になれる学習問題が出てくる。
- ・別の角度から時宗の業績が分かればよい。歴史は物語ではなく事実として捉える。
- ・必要な部分をしっかり取ってきた年表がよかった。そこに「福岡まで命令が届く」ということを加えて、時間的つながりと空間的つながりを意識する。

文責 呉屋 雄紀（師岡小学校）